

テーマカフェ 身近に手話でつながるには？



定員以上のお申込みがありました！

今回のテーマカフェは、手話を学んでおられるラコルタサポーターの方と一緒に企画しました。ゲストスピーカーの大江卓司さんは、吹田市聴言障害者協会で会長を務めており、ろう者の一人として手話への思いなどを語っていただきました。初心者の方が継続して手話を学べる場や、ろう者の方と気軽に交流できる機会が少ない中、参加者同士で情報交換をしながら、新たな発見や出会いがあったようです。

●開催日：6月24日(土)

テーマカフェ やってみよう！あなたの街でも地域猫



手づくりの捕獲器で実演！

ゲストに「さくらのしるし」と「桃山台自治団体協議会・桃山台地域猫(保護猫)の会」をお招きし、地域猫活動のきっかけや現状をお話いただきました。参加者は、既に活動をされている方、関心がある方、野良猫の被害で困っている方など様々。また、吹田市保健所の方も参加され、昨年7月からスタートした「地域猫活動支援事業」についても話題にあがりました。皆さん熱心に意見交換されており、地域猫活動への関心の高さが伺えました。

●開催日：7月16日(日)

どなたでもご参加ください！ ラコルタの講座・イベント

2023 第8期生募集！ 連続講座全6回

eNカレッジすいた
ソーシャルな“居場所”をつくろう！

- どなたでも ●定員 15名
- 参加費 500円(資料・保険代など)

まだ間に合う！
お申込みは
コチラ！
(多数抽選)



締切：
9月10日(日)

地域や社会の役に立ちたい。家族や仕事以外のつながりがほしい。
そんな思いを共有しながら、ソーシャルな生き方について考えます。

と き	内 容
9月15日(金)19:00~21:00	オリエンテーション
9月26日(火)19:00~21:00	つながりを深めるコミュニケーション
10月14日(土)10:00~12:00	今、居場所が必要なワケ
10月中旬～11月上旬	居場所づくりの現場を見てみよう
10月28日(土)10:00~12:00	居場所プランを考えよう
11月11日(土)10:00~12:00	居場所プラン発表&修了式

毎月開催！「ボランティア・NPO初歩講座」・・・9月17日(日)13:30~15:00、10月17日(火)19:00~20:30

編集
ノート

「居場所」という言葉が使われて久しい。かつては物理的な場所(家、職場、飲食店等)を指していたように思うが、今は人との関係性や生き方と結びつけられることも多い。コロナ禍以降「孤独・孤立」の問題化もあり、個人の社会における役割や関係のとらえ直し、自己存在感を高めることのできる「居場所」への期待は大きい。(柳瀬)

＜発行責任者＞ 春貴勇力
＜編集スタッフ＞ 茨木由美・入江陽子
芝 颯香・守谷 和美・柳瀬真佐子
山本泰秀

ここに注目！ 特集

孤独・孤立を防ぐ 居場所のあり方

VOL.44

出会う→集う→育てる→実る

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。

市民公益活動センター(愛称：ラコルタ)は市民の力で吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。

出会う→集う→育てる→実る
吹田市立市民公益活動センター

ラコルタ | 吹田市立市民公益活動センター
〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号 千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851 Eメール info@suita-koueki.org

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた



組織で応援

地域の活動



私たちが暮らす
地域や社会の事を
他人事ではなく自分事にする。
そういった“ソーシャルな生き方”の
魅力をお伝えします。

おき さちよ
第29回 沖 幸代さん
桃山台自治団体協議会 役員

宮崎県出身。小学6年生の時に家族で大阪市内へ転居。結婚を機に20代から吹田市に在住。現在は「認知症サポート 桃山お陽さまネット」を立ち上げ、地域で認知症カフェの運営や民生委員を担う。絵本の読み聞かせブックスタートのひろば「りんごの木」の代表も務める。

楽しんで地域と関わる

子育てが落ち着いた頃、読み聞かせボランティアをはじめたことがきっかけで、地域で活動する機会が増えました。今では、スケジュール帳が地域の予定でびっしりです。こんなに忙しい60代になるとは思っていませんでしたが、忙しさをストレスと感じないのは、地域のいろいろな人と出会い、話すことが楽しいからだと思っています。

地域自治団体の役割

企画を考えるのが好きなので、協議会では夏祭りなどの行事も任されています。しかし、協議会は行事をこなすだけの役割で良いのか、少しでも地域の身近な問題に取り組みないかと思うようになり、役員の皆さんに相談しました。まずは認知症の声かけ訓練からはじめ、最近では、地域猫の活動をしている人たちをバックアップしています。

皆でつくる
住みやすい地域

地域をよくするために活動している人を支えることや、住民の意識を変えることも、協議会という組織だからこそできると思います。役員の皆さんも、地域の課題に常に目を向けられ、協力して活動されています。これからも、個人や組織も含めて、「桃山台」というチームで、皆が住みやすい地域にしていきたいです。

学ぶ

ボランティア・NPO 初歩講座

興味がある方、活動はしているがもっと理解を深めたい方など。
「出前講座」も承ります。お気軽に！
●毎月開催！●定員 10名

やってみたい！の聲に
お応えします！
見つけよう！
自分にあった
ボランティア

単発！
短時間！
ぱちボラ 体験

働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方など
週末や余暇の新しい過ごし方として。
初心者の方でも気軽に参加できます！
(例)お弁当作り・喫茶・竹林整備など

孤独・孤立を防ぐ 居場所のあり方

トークイベント「居場所のレシピ ～人と人がつながる場～」より

7月12日(水)に開催したトークイベントのゲスト、大阪ガスネットワーク(株)都市魅力研究室の山納洋さんは、地域活性化に関わる調査をはじめ、カフェ空間のシェア活動や、トークサロン、まち観察などの企画を公私共にプロデュースされてきました。

また、2016年に出版された「つながるカフェ:コミュニティの〈場〉をつくる方法」では、各地で取り組まれているコミュ

ニティカフェの取材を通して、人が出会い、つながる場が、どのようにして実現するのかをまとめられています。

トークイベントでは、書籍に掲載されている事例を紹介いただきながら、場づくりのポイントについてお話いただきました。



（人がつながる場づくりのポイント）

ルールの設定

クレームを恐れて窮屈なルールをつくってしまうことは、人が自由に出会う機会までも損なわれてしまいます。揉め事があれば、いろんな立場の人と一緒に民主的にルールをつくっていく必要があります。

ツールの活用

コの字カウンターのある酒場に行くと、店主やお客さん同士で、自然と会話が生まれています。例えば、空き地で焚き火を起こしたり、公園でコーヒーをふるまったりすることで、場づくりを行う事例もあります。

ロールの存在

六甲山のリュックサックマーケットは、リュックがあれば誰でも店主になれます。役割がないと、居心地が悪くなってしまうですが、「店主」という役割があることで、その場においても良い理由を設定します。

山納さんに聞きました！

◎山納 洋さん
やまのう ひろし



後半は、「私にとっての居場所とは？」というテーマで、参加者の全員から意見を出していただきました。「一人で居て居心地の良い場所」「公園や自然の中」といった意見から、「成長や視野を広げられる場所」「人と話したり、ゆるくつながれる場所」など、人によって捉えている居場所のイメージやニーズが多様にあることが見えてきました。

最近は、公共的な課題解決を目的にした場づくりが増えており、そういった取り組みには、



行政からの補助金が出ることもあります。しかし、課題解決のための義務感が強くなりすぎたり、活動内容が制限されてしまうといったことが懸念されます。

一方で、同じような趣味や考え方の人たちがつながるような場であっても、誰かに与えられた場所ではなく、「自分事」として場に関わる機会があれば、市民自治への意識を育むだけでなく、それぞれに応じた居場所になるというお話でした。

コロナ禍以降、孤独・孤立の問題が顕在化しているといわれており、来年4月1日には「孤独・孤立対策推進法」が施行されることになりました。

また、内閣官房が定めた「孤独・孤立対策の重点計画」においては、孤独・孤立の予防や早期対応の観点から、日常生活環境でのつながりや**居場所の確保**が重要であるとされており、その担い手として市民の自主的な活動やボランティア活動に期待が寄せられています。

イベントづくりを通じて育む バリアフリーなコミュニティ

ハロー！！福祉は、障がいのあるなしに関わらず楽しめる音楽イベントを企画し、新しい出会いの場を作ること

を目的に、2021年より吹田市内で活動している市民公益活動団体です。友人同士ではじめての活動ですが、回を重ねるごとに仲間が増えており、障がいのある人も企画づくりから参加しています。

活動のテーマは「福祉」を掲げていますが、堅苦しいものではなく、誰もが安心して自由に表現できる場づくりを心掛けていますと代表の白川珠美さんは言います。例えば、意思表示をするのが難しい方がいた場合は、コミュニケーションがとりやすい方法をみんなで工夫し、障がいがあっても参加しやすい環境をつくっています。また、小学生の子どもたちが参加したり、アイデアを出す機会をつくることにより、賑やかでアットホームな雰囲気が自然と生まれています。

会議はオンラインで行うことも多いのですが、イベントをつくっていく過程そのものが、みんなの居場所にもなっています。



“居場所づくり”というと、常設された場所を構えるイメージがありますが、活動に参加することが居場所にもなるようです。



子どもたちに親しまれる 地域の本屋さん

1968年に創業した笹部書店(豊中市新千里西町)は、「輪・和・笑」をコンセプトに、本だけではなく、パンや駄菓子の販売、イートインコーナーの設置、しおり作りや読み聞かせイベントなどが開かれており、地域の人たちが集まる場となっています。

二代目店主の笹部勝彦さんは、子どもたちが気軽に入れるように「いらっしゃいませ」ではなく「こんにちは」と声をかけます。親しみやすい関係を築いたことで、利用していた子どもが成人した後も、結婚式に呼んでくれたり、赤ちゃんを見せに来てくれることがあるそうです。

ある日、いつもお菓子を買いに来ていた子どもが、夜中に店の前で座っていたことがありました。話を聞くと、お母さんと喧嘩して家出をしてきたとのこと。この子にとっては、単なる本屋ではなく、何かがあった時に頼りたい場所になっていたのかもしれない。

笹部さんは「どうやってお店に足を運んでもらうかと考えながら、いろんなことをやっていますが、みんなの記憶に残るお店になりたい」と話してくれました。



商品を購入したりサービスを受けることだけが、お店の価値ではなく、人とのつながりを生み出す役割も担っています。



ラコルタでも“居場所づくり”をテーマにした講座を開催します！

ソーシャルな“居場所”をつくろう！
eNカレッジすいた

※詳しくは裏面！→

9月15日(金) 開校